

【奨励】「変わるもの、変わらぬもの」

聖書において地震を示すと思われる節はこの節だけではありませんが、ヨハネの黙示録は終末論や予言が多く書かれており、実際にそれがその通り起こったかどうかは別として、古くから自然災害が人にとって大きな影響を持つものとして描かれていることが伺えます。ヨハネの黙示録が書かれた時期はおよそ紀元1世紀頃とされます。それから現在は20世紀近くが経過していますが、未だ地震は予知できるものではありません。

例えば2011年3月11日に日本海溝沿いで東北地方太平洋沖地震が発生しました。この地震が起こるまで、宮城県沖などにおいて数十年スケールで起こる地震のことはよく知られていましたが、それとは異なる数百年スケールでの超巨大地震があることは、一般にほとんど知られていませんでした。ただ発生前には、同規模と推定される地震がかつて起こっただろうこと、そして次の発生リスクが高まっていることは地質学から明らかになっていました。そのリスクが周知される前に、2011年3月11日は訪れてしまいました。この災害を教訓として、国の中央防災会議において、それまでの地球物理学に偏った地震予知を改め、古文書、津波堆積物、地形などの科学的知見に基づいて、多角的な研究・対策を進めることを検討するべき、という趣旨の提言がまとめられました。そしてそれから15年が経とうとしており、地震予知に関する考え方も変わってきました。また、千島海溝沿いなどにおける地震のリスクは、これまでも増してよく話題に上るようになっていきます。

聖書の中には、信仰、思想、文化、歴史だけでなくこのような災害に関する節もあります。多様な見方をすることも、それぞれの理解のためには重要であることを示しているとも感じられます。

【聖歌隊と一緒に歌いましょう】

大学礼拝では学生・教職員の有志による聖歌隊が合唱をします。歌ってみたい学生は、礼拝前と礼拝後にオルガン前で行っている練習に参加してみてください。一緒に歌ってみたい方のご参加をお待ちしています。

【次回の大学礼拝】2025年11月18日（火）10時40分

聖書　ヨハネによる福音書6章16-21節

奨励　「最も大切なことを忘れていませんか？」小林昭博（宗教主任）

【前回の大学礼拝（キリスト教教育強調週間）】2025年11月4日（火）

学生：27名　教職員ほか：8名　合計：35名

【大学礼拝週報】2025年度 第23号（後学期第8号）

2025年11月11日（火）午前10時40分

酪農学園大学 黒澤記念講堂

《礼拝順序》

司　　式　小林昭博（宗　教　主　任）

奏　　楽　佐藤理恵（野幌教会会員）

讃美指導　相原晴伴（循環農学類教授）

前　　奏　　エルサレム、汝高きに建てられし町よ（ツィップ作曲）

讃　美　歌　讃美歌21　400番（たとえ塔は崩れ）

聖　　書　　ヨハネの黙示録6章12-17節

祈　　り

さん　　び　　酪農学園大学聖歌隊

奨　　励　　「変わるもの、変わらぬもの」

祈　　り　　千葉　崇（環境共生学類自然再生学講師）

讃　美　歌　讃美歌21　493番（いつくしみ深い）

報　　告

後　　奏　　わが心の底より（メッツラー作曲）

【本日の聖書】ヨハネの黙示録6章12-17節

12 また、見ていると、小羊が第六の封印を開いた。そのとき、大地震が起きて、太陽は毛の荒い布地のように暗くなり、月は全体が血のようになって、13 天の星は地上に落ちた。まるで、いちじくのまだ青い実が、大風に揺さぶられて振り落とされるようだった。14 天は巻物が巻き取られるように消え去り、山も島も、みなその場所から移された。15 地上の王、高官、千人隊長、富める者、力ある者、また、奴隷も自由な身分の者もことごとく、洞穴や山の岩間に隠れ、16 山と岩とにむかって、「わたしたちの上に覆いかぶさって、玉座に座っておられる方の顔と小羊の怒りから、わたしたちをかくまってくれ」と言った。17 神と子羊の怒りの大いなる日がきたからである。だれがそれに耐えられるであろうか。